

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078900216
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホームまほろば
所在地	福岡県柳川市三橋町正行351
自己評価作成日	平成29年11月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成29年12月6日	評価結果確定日	平成30年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護事業所」ではなく、家庭とほぼ同様に楽しく自分らしく過ごしていただけるようゆったりとした環境であるよう心がけています。落ち着ける生活の場として活用していただけていると感じております。

重度化した入所者様が多くなりましたが、ターミナルケアも積極的に行き、最期をホームで迎えてもいいと感じていただけるよう努力しております。

地域住民の方とは、地域行事への参加を含め、日常生活での交流が多くあり、地域の一員として認められているように思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲はのどかな田園風景で、四季折々を感じられる静かな環境である。地域住民から季節の野菜をもらったり、菜園の管理や指導をもらうなど、地域との交流が深い。新鮮な野菜が献立に使われており、利用者の楽しみにもなっている。職員は利用者が“楽しく、自分らしく、穏やかに”暮らせるよう勉強会や外部研修に参加し、自己研鑽に努めながら生き生きと働いており、永年勤続者も多い。市の認知症サポーター養成講座で講師を務める“キャラバン・メイト”に事業所として登録している。その他にも、地域のコミュニティーセンターにて毎月1回「認知症カフェわたぐも」を開催し、地元住民より大変喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく自分らしく」を理念とし、画一的なケアをせず、個に合わせたケアをすることを理念としている。毎朝、理念の確認を行い実践している。	朝の申し送りの際、理念を唱和している。利用者が穏やかに過ごせるように、個々の状況に合わせたケアを実施し、理念が日々のサービス提供に反映されているか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などにも積極的に誘っていただき、参加している。事業所だと言う事で区別されず、周りの住民の方と同様の扱いをしていただいている。	地域住民から季節の野菜を頂いたり、事業所の菜園の管理や指導を受けるなどしている。また、管理者は地域の方に認知症への理解を深めてもらおうと、地元の小学校で授業をしており、地域との密接な交流が図られている事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトでの活動と、新しく始めた認知症カフェでの活動で、認知症の人への理解を広めるお手伝いをする事が出来ていると思う。また運営推進会議や当法人の行事等の際にもお伝えできていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者の皆様方にはよく意見を出していただき、そのご意見を職員に報告し、活用することができているように思う。また、委員様方にはよく協力していただけている。	運営推進会議は区長、元区長、民生委員、公民館長、地元住民代表、市職員、地域包括支援センター職員が参加し、2カ月に1回開催されている。事業所の現状や検討事項などを報告、相談し、サービス向上に反映できるように努めている。家族には訪問時に会議内容を伝達している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の取組みについては報告し、また運営上の相談などによく乗っていたけている。また、市からの要請があれば出来る範囲で受けており、連携は取れていると思う。	市の認知症サポーター養成講座の講師“キャラバン・メイト”に事業所として登録している。また、毎月1回“認知症カフェわたくも”をコミュニティーセンターにて開催しており、地域住民や行政にも好評で交流や協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部の勉強会などで正しく理解できるよう努めている。出来る限り身体拘束はしないようなケアを行っているが、身体拘束を行わなければならない場合などについての学習もしている。	職員は身体拘束のリスクについて管理者より教育、指導を受けており、利用者への声掛けや対応時に留意している。日々のケアの中で問題があれば、その都度職員間で注意し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても勉強会などを活用し、学んでいる。また、朝礼などでどんなことが虐待なのか確認し合っている。また、入所者様の身体的な様子、精神的な様子も確認するようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強などで、成年後見制度、その他の制度について話し合っている。しかし、現在それを活用するまでには到っていない。	管理者は2カ月に1回、職員全体に対し制度についての勉強会を実施している。玄関にはパンフレットを常備し、いつでも制度についての説明ができるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や入所時に説明を行い、その後に疑問が出た場合には、電話その他で質問を受け付けている。また、契約はお互いが納得した上で交わすようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には積極的に話しかけ、ご家族には面会時などに要望を聞くようにしている。面会が少ない家族には文書で確認をしている。意見要望が出た際には記録し、職員に周知させ、運営推進会議時に外部に表すようにしている。	家族には運営推進会議への参加をお願いしているが、都合が合わず参加できていないことが多く、現在開催日時などの変更を検討中である。家族の訪問時には積極的に声かけをし、話しやすい雰囲気づくりに努めて、意見や要望を聞き取り、サービスに反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日気軽に要望を言ってもらえるような環境は作れていると思う。また、会議の際などにも聞くようにしており可能な限りで反映させている。	管理者は職員と同じ視点でのコミュニケーションに努めており、職員の日常のケアの中での気づきやアイデアを聞き取ってサービスへ反映させている。職員全員で利用者へのサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の要望に沿った勤務体制が組まれており、今後も向上できることはしていきたいと思っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時に性別、年齢などで差別は行っていない。近年、募集をかけても就職希望者が少ないため、給与や勤務体制についてもかなり考慮し、より働きやすいように配慮している。	職員の採用には性別、年齢の制限はしていない。年間の研修計画を作成し、段階に応じて外部研修にも参加できるようにしている。資格取得にかかる費用を事業所が一部負担したり、個々の状況に応じた勤務体制にするなど、職員が働きやすい環境になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼や日々の業務の中で確認している。勉強会でも教育を行い、ケアの仕方などを職員同士でチェックし合っている。	利用者は人生の大先輩である、という意識を職員全員で共有しており、利用者の尊厳を大切にしている。利用者へは“さん”付けで声をかけ、利用者の表情は穏やかで落ち着いている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修がある場合は、掲示板に貼り行きたい研修に行けるよう配慮している。また、代表者が指名して研修に行っていたき場合もある。内部研修は定期的に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入をしているが、現在あまり参加できていない。キャラバンメイトなどの活動の際に交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の前に本人の意向や状態を確認するようにしている。家族の意向も含めてお互いにいい状態で生活していただけるよう環境を整えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず施設の見学をしていただき、家族の要望を聞くようにしている。できるだけ家族の意向に沿ったケアをするようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人と家族のニーズを再確認している。他のサービスが必要な際には、ホーム側が可能な時は要望に沿うようにしているが、不可能な場合は話し合うようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過介護にならないように本人ができることは行ってもらい、職員も助けてもらえるような相互協力関係をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族の要望を聞くのみならず、ホーム側か らも利用者様の状態に合わせて意向を伝え るようになっている。面会要請など。また、 利用者様の様子などに変化があった際に は、家族に連絡し意見を聞くようしてい る		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、馴染みの人などにはつな がりの継続を要請している。しかし、 最近では入所されていること自体を隠 されている方も増え、馴染みの人との 関わりは減ってきているように思う。	神社やお寺が地域に多くあり、散歩の 際はよく立ち寄って手を合わせてい る。法事や墓参りには家族と外出して もらっており、親族との繋がりが途切 れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入所者様同士が協力し合って出来るよう な活動などを設定するようにし、お茶の時間 などは会話を楽しんでいただけるようにし ている。会話などで関わりができない人 は、その場の雰囲気を味わってもらってい る。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず、施設を移動されたりして も相談に応じている。また、本人さま の様子を確認するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者様の当ホームでの生活の様子や 会話の状況などで以降を把握し、援助 を行っている。また、家族からも情報 を得て、検討するようにしている。	利用者との日々の会話や表情、行動な どから、どのように暮らしたいのか、 理念を念頭にくみ取り、サービス担当 者会議などで家族を交えて検討してい る。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人から直接聞いたり、家族から、以 前利用された事業所など、多様な所か ら情報を得ている。また、病院など とも連携し、身体的状態なども把握して いる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入所前にも情報を聞くが、入所後しば らく様子を観察し、現状の把握をする ように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向が確認できる場合は本人、または家族の意見を積極的に取り入れ、複数の職種のアドバイスを下に介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方を重んじるため、担当制で介護計画を作成している。毎月1回モニタリングをし、3か月に1回、家族参加のサービス担当者会議を実施して、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項については業務日誌に記録し、毎日申し送り時に確認している。また、個人記録も記入しておりすぐに日々の状態が確認できるようになっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とそのご家族のご希望があれば、検討した上で出来る範囲で対応している。柔軟な支援もできていると思うが、すべてのニーズに答えられているというわけでもない。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動、行事などで参加できるものはするようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に利用者様本人のかかりつけ医を利用されている。かかりつけ医がない場合には、当事業所のかかりつけ医を紹介し、納得された上で入所を決定している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を利用している。事業所の協力医は、月2回の訪問診療の他、24時間対応可能であり、緊急の際も安心である。受診の際は家族とも協力し、連絡を密にとっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護職員に対し相談し、助言を得ている。看護職員は、入所者様の観察を行い、様子を把握している。また、緊急の際には24時間対応でき、相談・対応できるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とは連携し、入院時も面会や相談を行っている。医療機関と家族とともに退院時期を決めている。情報交換は詳細なものを当所より提供し、できる限り医療機関からも得るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期医療について説明し、同意を得ている。更に、実際に終末期に入った際は、再度医師、家族と話し合いを行い終末期医療の進め方について検討し、同意を得るようにしている。	過去に数例の看取り経験があるが、終末期医療について更に理解を深めるため勉強会を実施している。また、医師、訪問看護師との連携を密にとり、ケアの方針、支援の統一を図れるように努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救急救命の講習の他に、職員が各自で講習を受けに行くなど、非常事態の際にも対応できるよう練習を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域住民の方も一緒に年に2回行っている。実際の避難経験もあり、地域住民の方々からの協力も得られている。	年2回、消防署立会いのもと防災訓練を実施している。地域の方や、運営推進会議メンバーの参加もあり、緊急時の体制を整えている。数年前、実際に水害にあい、利用者、職員が全員避難した経験がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の個に合わせた対応をしている。特に言葉遣いに関しては、威圧的な言葉や失礼な言葉遣いのないように毎日注意し合っている。	利用者の気持ちを大切にし、言葉遣いや対応に配慮してさりげない介護を実施している。プライバシーの重要性については、接遇教育により十分理解している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分自身の希望を明確に言える入所者様は少ないので、想いを表現してもらえるような声掛けを行っている。また、発語のない方に関しては、日々の様子を観察することで意思を推察するように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあるが、できるだけ要望に沿った対応が出来るように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などは職員がある程度用意をしている場合が多いが、基本的には自分の好きなものを着ていただけるようにしている。毎朝の整容などは介助していることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活のなかで、利用者様好き嫌いを把握しメニューの構築を行っている。現在、食事の準備が可能な入所者様が不在だが、テーブルふきなどの簡単な作業を手伝っていただいている。	職員は利用者の嗜好を把握しており、栄養士に相談しながらメニューを考えている。地域の方からの差し入れや、菜園で収穫した野菜をメニューに加えることも多い。利用者と職員は、同じテーブルで同じ料理を一緒に食べており、アットホームな雰囲気である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個に合わせた、量や形態をバランスを配慮した上で考えている。特に水分量は量の記録をこまめに行い、摂取していただいている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、睡眠時に入れ歯などの洗浄を行っている。自分でケアができる方は見守りし、できない方は介助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所前から排泄パターンの情報を得ておき、入所後出来るだけ早いうちにパターンを把握するようにしている。入所時におむつ利用だった方も入所後に自立された方も多数いらっしゃる。	個々の排泄パターン表を作成しており、全職員が把握している。トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っており、おむつ利用者が減少している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し、個別に対応している。水分や食物で改善されることもあれば、薬の使用が必要な場合もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決めているが、それ以外の日にも希望があれば入浴できるようにしている。特に入浴拒否の方に関しては時間をずらす、曜日を変えるなどして対応できる。	入浴は週2回午前中と決めているが、利用者の状態に応じた入浴となっている。希望があれば、毎日でも対応可能である。入浴を好まない方には、家族にも相談し、連携をとりながら支援するなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の休みたいときに休めるよう配慮しており、環境の整備もしている。ただし、昼夜逆転には気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明を受け、薬の内容については把握するとともに副作用についても各職員が理解している。また、新しい薬が出た場合などは様子を記録し、医師に伝えるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全入所者様が楽しく過ごしていただけるように、工夫している。また、入所前に趣味のあった方などのかんしては入所後も継続していただけるよう配慮している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日などは、積極的に戸外に出るようにしている。季節に応じて、車で小旅行に出かける。また、本人やご家族の希望があれば、家族の協力のもと出かけていたできるようにしている。	天気の良い日はお弁当を持って近くの地藏尊や神社へお参りや散歩に出かけたり、車で温泉までドライブし、足湯を楽しんだりしている。外出が困難な利用者は、事業所の菜園に行つて気分転換を図っており、利用者それぞれが戸外に出かけられるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ほぼ金銭管理の難しい方が入所されている。お金を持っていらっしゃる方も、持っていることで安心され、実際に使うことは少なくなっている。本人やご家族からの要望があれば、買物支援はしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をすることが可能。手紙も希望があれば、代筆・投函行うようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思う。全体的に温かみのある光源を使用している。当事業所自体は小さいのだが、生活する分には問題ないと思う。	利用者が居心地良く安全に寛げるように、テレビやソファ、テーブルの位置に配慮している。廊下やリビングの壁には利用者と職員の手作りの季節を感じる折り紙が飾られている。天窓からは目に優しい光が差し、過ごしやすい空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではTVとソファを設置し、自由にくつろいでいただけるようにしている。食事の際の席などは、仲の良い方たちと楽しんでいただけるよう、配慮して決めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には何でも持ち込み可能としている。中には位牌を持ってきていらっしゃる方もある。しかし、現在持ち込みはあまり多くない。また、刃物やライターなどの危険物は持ち込み不可とさせていただいている。	利用者が心地よく過ごせるよう、家族の協力のもと、使い慣れたチェストやイス、手作りの雑貨、写真などを部屋に置き、温かい雰囲気の部屋となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過介護にならないようにし、また建物内もわかりやすく、動きやすくできるよう、無駄なものを置かない、電灯のスイッチは使いやすく・・・など配慮している。		